

2 廢藩に付藩費生徒処置の儀伺

〔明治四年七月〕

学校ノ生徒十九分ハ藩士ニ有之候処大概藩費ヲ以留學罷在候ニ付今般廢藩被 仰付候ニ付テハ生徒不殘歸藩申付候然ルニ生徒之中学科相應ニ進歩致シ候者不少只今歸藩致シ候テハ何レモ半途ニシテ廢業ニ及ヒ且教師モ多数御雇入ニ相成候処生徒無之テハ教導不相立殆有名無実ニ立到候儀慨歎ノ至ニ御坐候依之生徒ノ内学科相應進歩致シ往々成業ノ見込有之候者ハ其具ヘ相違費ヲ以テ修業出来候様不相成候テハ此末人才教育ノ途廢止可致候右ノ段至急御詮議ノ上何分ノ 御沙汰被下度候也

辛申七月廿日

文部省

太政官御中

〔朱書伺之通於其省可取計事〕

別紙ノ通文部省ヨリ伺出候ニ付於同省可取計旨相違候間此段為御心得申入候也

辛未七月廿二日

太政官

大蔵省

(注記1)

(注記1)

「三」(簿冊内件名番号)

〔辛未自七月至十月
公文録 文部省之部
2A, 9, ⑤589〕

乾